

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100849		
法人名	株式会社 エヌエス		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地	名古屋市港区東蟹田1001番		
自己評価作成日	平成26年1月16日	評価結果市町村受理日	平成26年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自家栽培の米や野菜、果物を利用して、安全・安心な食事の提供を心がけています。外出にも力を入れておりまして、月に一度の外食や月に2回の喫茶店、年に1から2回の遠足等を計画しております。たとえ昨日のことは忘れてもその瞬間を喜んでいただきたいと思います！少しでも笑顔で過ごしていただきたいと思います！という思いより、外出を積極的にさせていただいております。また、理念のひとつである“笑顔の絶えない楽しい暮らし”を目指して、皆様に助けをもらいながら、日々勉強させてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者一人ひとりの“その人らしさ”と“個性”を大切に、理念でもある笑顔で楽しく過ごしてもらうことを日々の支援の軸としてケアに取り組んでいる。家族の話やこれまでの生活歴から、利用者が出来ること、好きなことに目を向けて、調理や洗濯物の片付け、買い物などを一緒に行いながら、家と変わらない生活がホームでも送れるように努めている。また健康面で一番大切な食事には特に配慮しており、自家栽培で採れた新鮮な野菜やお米、果物を使った日々の食事は、家族や利用者からも大好評である。また、地域との関わりも深く、民生委員や老人会を通して地域のお祭りや催し物の知らせをもらい、利用者と共に出席したり、ホームの避難訓練を近隣の人と一緒にするなど地域交流も定着している。今後も利用者が笑顔で安心して過ごせるように、家族・地域・ホームがお互いに助け合いながら、利用者を支えていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初より、理念をその人らしい生活を大切にする、笑顔の絶えない楽しい暮らし、地域に根ざした暮らしとさせてもらっている。理念を玄関やフロアに掲示し、常に意識を持てるように心がけている。	ホーム理念がいつでも目に留まる玄関や各フロアに掲示がしてある。職員は“利用者本位とその人らしさ”を支援の軸として、理念が実践に反映できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や毎日の散歩等を通して、顔なじみが増え、地域の方に消防訓練にも参加していただいたり、回覧板を回していただいたりと交流が増えつつある。子供110番にも加入している。	日々の散歩や外出で、近所の人と挨拶や会話を交わすなど、顔なじみの関係が出来ている。また、自治会にも加入し、福春学区の集まりに参加して地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の入り口に介護相談の看板をつけて相談を受けさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練に参加していただいたり、町内の定例会に参加させていただいて、サービス向上に努めている。また会議では地域の近況を伺いながら支援しています。	2ヶ月に1回、定例化して会議を行っている。ホームの日頃の様子や状況を、いきいき支援センター職員や民生委員などに伝えて、意見交換を行っている。また、地域で行われる行事や催し物の情報を知らせてもらっている。	運営推進会議で話し合った内容を、参加をしていない職員にも報告をして、取り組んでいる内容を共有していくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことや困ったことがあれば、役所の方に相談させてもらっています。	利用者の支援方針で、迷いや困ったことがあればその都度、区や市の担当者に相談をして、アドバイスや指示をもらうようにしている。また、港区の介護事業所連絡会にも入っており、情報交換は定期的に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日ごろより身体拘束のないケアに取り組んでいます。	利用者との関わりの中で、身体的な拘束のみならず、言葉のかけ方にも気を付けている。日頃から職員同士でお互いの支援を見直したり、マニュアルを見直す等して利用者の意に沿ったケアが提供できるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろより虐待のないケアをさせてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルや講習会にて学習する機会を設けています。また身寄りのない方は権利擁護の機関にて支援させていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や毎月の便り、訪問時等に伺い、不安のないように支援させてもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に伺ったり、意見箱を設け、ご要望をいただけるように努めています。	面会の際に、ホームに対する要望や支援への希望を聞き取り、迅速に実践に繋がれるようにしている。また職員の名前を分かりやすくして欲しいとの意見があり、現在顔写真付きの自己紹介表を作成している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時間をみて職員に意見を聞いたり、会議の議題にして運営に反映できるように努めています。	管理者や各フロアリーダーは、日頃から職員と話をする時間をとるように努め、それぞれの意見や思いを聞くようにしている。職員から挙げられた要望は出来る限り実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働いてもらえるように働きかけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を周知し、力量をみて指導できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会や親睦会に参加してもらい、同業者との交流を定期的に図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困らないように耳を傾け、個々の対応や関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞きながら、ご利用者様にとって一番いい方法を一緒に考えられるように努めています。また長くお付き合いをさせていただきながら信頼関係がとれるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご事情によっては他のサービス機関をご紹介します。紹介させてもらっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、色々なことを学ばせてもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆を大切にさせていただき、絆が心配される場合はこちらから働きかける場合があります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思いを組みよい関係を維持できるように努めています。	お正月やお盆には家族の協力を得て、自宅に帰省をしている。また孫の結婚式へ出向くなど、冠婚葬祭への参加も積極的に支援しており、今までの関係継続を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様の関係を見守りながら、良い関係作りができるように支援させてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も他施設等へ伺い今までの関係を大切にさせてもらっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望が叶えられるように努めています。	職員は、利用者へ日々の関わりの中でよく話を聞き、多くの言葉をかけながら表情や行動等を観察している。入浴時に1対1で話を聞く事もある。表情や言葉に表しにくい利用者の情報を職員同士で共有し、助言し合い希望の生活が送れるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より伺ったり、日々の生活の中でも読み取れるように注意しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を職員同士、申し送りや会議等で情報を共有し、その方にあつた対応を心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のフロア会議にてケアのあり方を相談しています。またご家族に近況を相談して、ケアのあり方について、ご意見を頂き、ケアプランに反映させてもらうこともあります。	職員は利用者が希望する生活に近づけるように、本人や家族の意見・要望を基に話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎の見直しを基本とし状態変化時には随時の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロア毎の連絡帳や会議、普段の会話にて情報を共有しながら、ケアプランや日々の対応の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様本位のサービスができるように、常に相談しながら、決めさせてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	帰宅願望の強い方は定期的にご自宅へ帰られたり、買い物・喫茶店がお好きな方にもご家族に協力していただいたり、職員が対応させていただき、ご満足いただけるように支援させてもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を伺い、日々の健康管理は協力医や看護師に任せさせていただけるようにお話しています。	協力医の往診は月2回ある。近隣の歯科受診は家族と協力して対応している。眼科や認知症専門医等への受診は家族対応であるが、必要時には協力医から情報提供を行い連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	フロアごとの看護師ノートで日常の相談をしています。また、時間外にも臨機応変に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて職員間で話し合っている。また必要な場合は、ご家族にも相談させてもらっています。	本人や家族へは入居時にホームの方針を説明しており、職員には看取りについて話し合いや勉強の機会を設ける等体制を整えている。利用者の状態の変化に合わせて家族や協力医とも話し合い、希望に副えるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや講習会の参加にて学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っています。うち一度は地域の方、消防署の方もご協力いただいております。	民生委員の協力により、地域住民と一緒に避難訓練が行われている。夜間想定訓練も行い、地域の協力体制を強化している。また、近所に職員や関係者が住んでおり協力が得られる。地震後の津波に対しては、近くのマンションを避難場所としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしく生活していただけるような支援を心がけています。	職員の一人ひとりの利用者に対しての言葉かけがとても自然で、家族のような温かさが感じられる。利用者の人格を尊重し、様々な不穏行動や言動に対しても配慮のある対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が答えやすくなる質問等、その人に合った対応を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	与えられた状況の中で一番ベストな状態で一人ひとりのペースを大切にして尊重させてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいお洒落ができるように支援させてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様が喜んでくださることを考えて献立を立てさせてもらっています。また、お手伝いも力量に合わせてお願いしています。	ホームで収穫した季節の野菜や自家米が食卓に並ぶ。管理者は利用者の好みや職員の意見を聞き献立を立て、誕生日には手作りのケーキでお祝いをしている。職員と一緒に調理や準備等を行い、家庭的な雰囲気大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量や必要があれば水分摂取量を記録しています。また、刻み、とろみ等、個別に必要な対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力量に応じてケアをしてもらい、足りないところは職員でお手伝いをさせてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握してなるべくトイレにて排泄していただけるように支援させてもらっています。おむつ外しの支援もしています。	トイレでの排泄ができるように取り組んでいる。外出や食事前の声かけと共に、利用者の状態に合わせた支援を行い、紙パンツから布パンツやパッドになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、乳製品や食物繊維を積極的に摂り、時には腹部マッサージを行う等をして自然排便を心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、タイミングや声かけ等工夫して気分よく入浴していただけるように努めています。	週3回は入浴ができるように支援している。入浴時間は午後2時～5時頃までとし、入浴剤等も利用している。拒否がある場合には、無理強いせずに清潔が保てるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人、おひとりご自分のペースで生活していただけるように支援させてもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が共有できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を活かした支援をさせてもらっています。気分転換や筋力維持のための毎日の散歩、喫茶店、買い物等を支援させてもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族にも協力していただき、ご自宅やお買い物、喫茶店等へお出かけしてもらっています。	天気が良ければ毎日散歩に出掛けている。喫茶店でのモーニングや外食、近くのスーパーへの買物等の支援も行っている。家族の協力もあり自宅や喫茶店、買物等に出掛ける利用者もいる。花見等の季節毎の外出も企画し、楽しみのある生活が送れるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族と相談して決めさせてもらっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙や電話等を支援させてもらっています。また、ご希望があれば、代筆もさせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて貼り絵や写真を考えています。明るい共有スペースになれるように心がけています。	ホーム全体が明るく広々として開放感がある。リビングでは、利用者が体操やゲームを楽しめる十分なスペースがあり、壁面には書道や貼り絵等季節感を大事にした作品が飾られ温かさが感じられる。トイレや浴室、台所等も整理整頓がされ気持ちよく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日向ぼっこをしたり、日記を書いたり、気の合う仲間でおしゃべりをされたりとお好きなように過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい清潔な空間が保てるように努めさせてもらっています。また以前の生活習慣に近い居室になるようにも努めさせてもらっております。	本人の思い出が詰まった茶筆筒等の家具や仏壇、家族の写真や小物、趣味の作品等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字を大きくしたり、目印を付けたりして分かりやすい工夫をしています。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371100849
事業所名	グループホーム なごみの里

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	地区のお祭り際には、お神輿がホームまで出向いてくれ、毎年利用者の楽しみとなっている。また、民生委員からの誘いで戸田川緑地で行われた敬老会に利用者が参加するなど、日頃から地域との交流を積極的に図っている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目: 3)	評価
	いきいき支援センターの職員や民生委員、老人会会長などの参加を得て、定期的に会議が開催できている。今年度は緊急災害時に利用者をどのように安全に避難をするか、また地域の協力体制についての話し合いを重点的に行った。そして、実際に近所の人や消防署に参加を依頼して、一緒に避難訓練を実施することが出来た。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	市が主催する研修には積極的に参加をしており、職員一人ひとりがスキルアップを目指している。生活保護係の訪問も定期的であり、その都度利用者の状況や様子を伝えている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	家族からは家族会や面会時に、ホームへの要望を聞くように努めている。定期的に「なごみの里たより」を送っており、家族からのアンケートからも、生活状況が分かりやすい、いろいろな行事に参加している様子が見れて感謝している等の意見が挙がっていた。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	○	○	○	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。